

## 技術士からの提言 第6回



SUDOH CHIAKI

## 「政府調達競り下げ方式導入に思う」

7月5日の日経新聞一面に「政府調達競り下げ方式で安く」という記事が掲載された。政府は物品や資材を調達するための入札時に複数の業者がインター

競り合う「競り下げ方式」を導入する方針を固め、6日（報道の翌日）に閣議決定する。これはわが国の将来を考

えると「到底見過げすことのできない事件である」という。今回の参議院選挙で「競り下げ方式」でも、先進国で最大といわれる財政赤字をどのよう

に解消していくのかが、示した価格を見ながら業者が何度でもそれより安い価格で入札するための入札費を削減する

技術士（建設部門）須藤千秋

いうことだ。

価格競争が過熱すれば、技術を維持、発展さ

いだろか？

内に何度でも入札し直せ

る。

本からいなくなってしま

うのではないか？ 応のコストがかかるつ

る。あるいは、巧妙な（談

合や欠陥隠しなどの）不

正の温床になる懸念はな

いだろか？

でもできると思う。

公共性の確保等に工

夫は要ると思うが、投

資の効率は確実に良くな

るし、企業のCSR

（社会的責任の遂行）

推進という観点からも

理解を得られるとして考

え

る。

## 「安く調達第一で公共工事は本当に良いのか」

工事についても、安く調達することを第一義に考

えることが本当に正しいことだらうか。この夏の集中豪雨の被

害を見るまでもなく、わが国は毎年のように大地震が発生する。たしかに大きい地震入力

を想定し、バネや減衰とといった力学的性能やその精度、限界変形性能の高さなども最高水準にな

く、ひたすら相手の競り値だけである。ところが、発注者の責任がこれまで以上に厳しく問われる

ことは間違いない。

公共工事は国造り、

未来のための先行投資

である。後輩や子孫た

ちに、安物で満ちた貧

乏しい国を残しては

ならない。災害に強く、

持続的発展を支える国

土形成という本来の政

治の役割を、国民一人

一人がはつきり認識

し、チェックして行か

ることになる。